THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA

WEEKLY

名古屋ちくさ

題字　伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
承　認　1982年 8月24日
例会日　火曜日　12:30
例会場　名古屋東急ホテル
事務局　TEL763-5110 FAX763-5121
会　長　谷口　優
幹　事　竹内克豊
広報・会報委員長　池森由幸

No. ２５　奉仕を通じて平和を　Peace Through Service

2012～2013年度　RI会長　田中　作次

今日の例会
第１４４２回　平成２５年 ２月 ５日（火）
講演“パワハラ時代を乗り越えるリーダーの指導力”
㈱ミュゼ 代表取締役　斎藤 直美様

先週の例会
第１４４１回　平成２５年 １月 ２９日（火）晴
節分例会　於：城山八幡宮　午後５時３０分

節分祈祷・追儺式

福は内　鬼は外

◆奉仕の理想
◆四つのテスト
◆出席報告

会　員	３７（３０）名	出席	２０　名
出席率	６６．６７　％		
前々回	１/１５（修正出席率）		９０．９１％

◆ビジター数　（昼間）　７８　名

竹内幹事報告

1）２月のロータリーレートは、１ドル＝８８円に変更になりましたのでお知らせ致します。

渡邊職業奉仕委員長挨拶

昨年の職場例会に続き、この節分例会は職業奉仕の大きな行事になります。
皆さま　寒い中お集まり頂きましてありがとうございます。
　毎年恒例となっておりますが、吉田宮司様には大変お世話になりありがとうございました。
僅かな時間ですが、ご歓談頂き、ごゆっくりお過ごし下さい

谷口会長挨拶

節分に因んで

節分は、季節の変わり目である立春・立夏・立秋・立冬の前日をいいますが、日本では、立春は１年のはじめとして特に尊ばれています。現行暦では２月３日または４日ですが、旧暦では、期日が一定せず、大みそかよりも前になることもありました。節分に行う豆まきを追儺式、鬼やらいなどとも言います。本来は疫鬼を追い払う行事です。

節分の行事としては、豆まきがことに有名な行事ですが、その他に、『門守り』「イワシの頭や柊の葉を門のところに挿す習慣」・・・イワシの頭の悪臭で、柊の葉の先のとがったところで、鬼を追い払うからと俗に言われています。地域によってはニンニク、ネギ、等を用いるところもあります。言われはよくわかりませんが邪気を祓う為のものでしょう。

『修二月会』「各地のお寺では、この頃に修二月会と呼ばれる追儺の儀式が行われます（疫鬼を払う儀式）。特に奈良東大寺の二月堂のものは「お水とり」として有名です。

盛んに庶民のうちで行われている行事として「恵方巻き」があります。節分の日に巻きずしを恵方の方角に向いて丸被りするものです。無言で食べきると１年間よいことがあるそうです。

愛知県の風習らしいのですが、１９７７年に大阪のり協同組合が節分のイベントとして実施し、それがマスコミに取り上げられ、全国のお寿司屋さんが便乗して全国に広がったということです。今年の恵方は南南東で、笠寺観音が恵方の観音様になります。

以上本日の会長挨拶とさせていただきます。

本紙は再生紙を使用しております。

講　話

吉田　玄 君

不老不死の実「橘」と
菓祖田道間守

当社拝殿前の一対の橘はこの地方でも随分大きいものだそうですが、今ちょうど実が鈴生りです。
この実は古来から「不老不死の実」といわれている実です。

田道間守（たぢまもり）は第11代垂仁天皇(BC69)の勅命をうけ、常世（とこよ）の国にある、非時香菓（ときじくのかぐのみ）と呼ばれる不老不死の霊薬を求めるため海を渡りました。田道間守は、唐、天竺をさまよい、常世国に至って、この実と出会いました。そしてその実を持って急ぎ帰国しました。ところが、出発より十年の歳月がたっており、垂仁天皇は田道間守が帰国する前年、彼のことを九年の間案じつつ崩じられていました。「九年母（くねんぼ）」の語源もここから来ています。田道間守は嘆き悲しみ、御陵に非時香菓を献じ殉じてしまいました。その跡に育ったのが橘だとされます。この逸話を残す「日本書紀」には、非時香菓は橘であると記しています。

橘は田道間花（たぢまはな）がつまったものだとの説もあります。橘は花も実も香気が高く、寒暖の別なく常に青緑の濃い葉が美しく生い茂り栄えるので、永遠に喩えられ長寿瑞祥の樹として重用されました。早春に花が咲き、そして実をつけることから、めでたい木とされ、中国の宮城、平安京の紫宸殿前庭には「右近の橘」として殿上から見て右側に植えられ、現在の京都御所にも伝えられています。
平安時代には内裏だけでなく一般の邸内にも長寿の樹として植えられていました。

また、「左近桜（さこんのさくら）」は、平安京の内裏にある紫宸殿殿上から見て左にある桜の樹です。
桓武天皇(737-806)の平安京遷都のときには梅の樹が植えられ「左近の梅」でしたが、平安時代には唐風文化から国風文化が盛んになり、仁明天皇(810-850)のとき、梅の代わって桜を植えました。梅という中国的なものから桜という日本的なものへの文化の大転換期を象徴しています。「左近の桜」「右近の橘」は雛飾りにも添えられています。

当社もそうですが、八幡系の神社には橘紋が多く使用されます。平安時代、京都に八幡神を勧請した僧・行教の紋が橘であったため、橘紋が採り入れられたとされています。永遠を象徴する常緑の橘は家紋としても使用されました。橘紋は実と葉をかたどっているといわれますが、花と葉のようにも見えます。

昭和12年(1937)に制定された文化勲章は橘をデザインしています。当初の意匠案は桜をデザインしたものでしたが、昭和天皇が、桜が花も葉も散ることから潔く散る武人の象徴となってきたのに対し、常緑の橘はいつ見ても変わらないことから永遠を表すのものであるとし、陛下の「文化は永遠である」との御言葉から、永遠であるべき文化の勲章としては橘の方が望ましいのではないか、という趣旨の意見を出されたため桜から橘に変更されたといいます。

橘の学名はCitrus tachibanaといい、ミカン科ミカン属の常緑小高木です。沖縄のシイクワーサーと橘の２種類だけが日本原産の柑橘種です。別名はヤマトタチバナ、ニッポンタチバナといい、日本に古くから野生していた日本固有の柑橘類です。和歌山県、三重県、山口県、四国、九州の海岸に近い山地にはまれに自生しています。国内北限の自生地は静岡県沼津市です。
シトラスということでわかるように、さわやかな柑橘類の香りが特徴で、この香りがいつまでも消えないことから、非時香菓（いつまでも香りが消えない果実）と言われました。初夏に香の高い白色の五弁の花が咲きます。小さな白い花がびっしりと咲く頃は境内にシトラスの香が匂い立ちます。
この花は「ハナタチバナ」と呼ばれます。『古今和歌集』には「五月待つ花橘の香をかげば昔の人の袖の香ぞする」と詠まれ、橘は昔の恋人への心情と結び付けられました。

万葉以前、橘の皮は風邪の薬として用いられていました。

果実は滑らかで、直径3センチメートルほどです。
紀州ミカンや温州ミカンに似ていますが、酸味が強くそのままでは食用には向かないため、マーマレードなどの加工品にされることがある。
香りがよい橘の皮や実は、蜜と一緒に煮て菓子としても食され、わが国の菓子のはじまりのものとされます。その由来から、田道間守は菓祖（お菓子の神様）とされています。

奈良、唐招提寺の近くに垂仁天皇の御陵がありますが、御陵を囲む堀に浮かぶ小島が田道間守の墓です。今も寄り添うようにお供をしています。

今日、お帰りにこの実に触って頂くと不老長寿のご利益を頂けるかもしれません。但し、枝に棘がありますからお気をつけ下さい。

直　会

舎人ＳＡＡ 乾杯発声

皆様の健康と益々のご活躍ご発展
また千種RCの発展を祈って
乾　杯

萩原会長エレクト閉会挨拶

今年も満開の蝋梅が品のいい香りを漂わせています。肌ざわり、色も蜜蝋を彷彿させるものですね。
１月２７日の誕生花は蝋梅だそうです。
花ことばは、いつくしみ、やさしさ・・・

ありがたいご祈祷と、立派な追儺式・豆うちも終わり、和気あいあいの節分会ができました。ありがとうございました。皆さま、お気をつけてお帰り下さい

✿ニコボックスは次回掲載させて頂きます

次回例会　：　平成２５年　２月１２日（火）　１８：３０　４Ｆ　雅の間
名古屋名城ローターアクト合同例会